

①【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1(高等学校)

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立伊万里高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、特に家庭学習時間の確保や低学年からの基礎学力の積み重ねの面で課題が残る。各教科を中心に本校独自の指導体制の確立を図りつつ、生徒の学習意欲の喚起のための方策を練っていく必要がある。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進の面ではさらに改善の余地がある。次年度は、職員アンケート等を実施して現状の把握に努め、行事の精選やその運営方法等についても継続的に協議していく。 ・SAGAスマート・ラーニング(SSL)については、#キセキ部を中心に生徒自らが地域と密に連携を取りながら計画立案し、地域とつながる魅力や課題を考え、解決しようと積極的に活動している。また、地域の物的資源や人的資源を活用した講演会やボランティア活動等も実施している。その結果、地元に着用を感じる生徒が増えている。次年度も活動範囲を広げることで、学校の魅力を発信していく。
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自然を尊び郷土を愛し、人としての優しさに満ちた豊かな人間性と、自らの生き方に目を向けてよりよく生きる自主自律の精神を育てる。(自律) ○個性と創造性を伸ばす個に応じた教育を進めるとともに、高い志を持ち、自ら判断する力、自ら学ぶ力と学んだことをもとに発信する力を育成する。(創造) ○急速に進む高度情報化社会にあつて、情報活用能力やコミュニケーション能力が必要とされる時代に、互いの存在を認め合い敬意をもって接し、皆が安心して過ごせるような配慮や気づきのできる人材を育成する。(友愛)
3 本年度の重点目標	<p>「地域に信頼され、期待に応える普通科進学校を目指す」</p> <p>①志を高める教育 ②学力向上と進路保障 ③自己有用感の育成 ④地域との連携の強化</p> <p>の4つの観点で魅力ある唯一無二の誇り高き学校作りを目指す。</p>

4 重点取組内容・成果指標

重点取組内容	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価	意見や提言
				評価項目	取組内容	達成度	達成度			評価	意見や提言
●学力の向上	○家庭学習時間の確保	○生徒の学習習慣の確立 (学年+1時間の家庭学習時間の確保)	・授業と連動した効果的な課題の提示 ・予習・復習・テスト勉強の徹底 ・各生徒の志望進路に応じた長期的・計画的な指導の工夫 ・家庭学習時間の増加につながる指導の研究	C	・3年生は「受験生」に必要な学習時間に近づけることができたが、全体としては十分とは言えない。特に、1年生の学習時間が前年度と比べ少ない。 ・「なぜ勉強しなければならないのか」という目的を持たせないと学習時間の増加は見込めない。そのため、教科指導と進路指導の一体化が必要である。	B	・国公立大学については、総合型選抜・学校推薦型選抜で10名が合格し、前期試験には58名(3年生の42.6%)が出願した。私立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜については、関東・関西地区の有名私大の受験が減少した。 ・家庭学習時間については、十分に確保できているとはいえない現状である。学年やクラスによってもばらつきが見られる。	B	・毎年、難関大学を含めた一定数の国公立大学合格者がでると、この地区で進学を考えている生徒の流出が防げる。	進路指導部	
	○授業の充実と教科指導力の向上	○学校評価アンケートにおいて、「あなたは伊万里高校の授業に満足している。どちらかというと満足している」と回答した生徒80%以上	・教科の枠を超えて、授業を見学しあえる機会を増やす。 ・教材研究や生徒支援の時間を確保するための業務の効率化。	B	・研究・公開授業はすべて校内研修として扱い、事前に案内して、担当する教科・学年の枠を超えて見学してもらっている。 ・委員会の精選、内規・規定集の改訂による業務の見える化、職員配布冊子のPDF化、保護者会出欠調査と体験入学保護者アンケートのデジタル化等を実現した。	B	・学校評価アンケートで、「そう思う」「ややそう思う」の生徒回答が、「授業に満足している」に対して97%、「授業ではICT機器が有効に活用されている」に対して98%だった。 ・教科や担当学年の枠を超えて、11回の研究授業を参観しあえた。 ・保護者宛文書と校内会議資料のペーパーレス化を推進できた。	B	・今後も研究授業や公開授業を実施して更に授業を面白くしてほしい。	教務部	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートにおいて、「あなたは充実した学校生活を送っている」と回答した生徒が80%以上	・全校集会・学年集会・始業式・終業式等で、豊かな心を身に付ける講話を実施 ・各クラスで適宜、社会性や倫理観を育むような指導の実施 ・講演会の実施	B	・始業式・終業式、全校集会等で、人権や人としての在り方などについて、様々な事例を用いて話をすることができた。 ・各ホームルームで、思いやりや社会性を身に付ける話をタイムリーに行った。	B	・本校で充実した学校生活を送っているかの質問に、そう思うと回答した生徒は63%、ややそう思うが31%。目標値に達しなかった。 ・生徒が校外で他人を援助するなどの善行があったと電話が入ることがあった。	B	・先生の話ばかりではなく、外部講師の話があると効果が上がる。	生徒指導部、総務部	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ解消率100%	・少なくとも3回/年はアンケートを実施し、いじめの積極的な認知と、解決に向けた迅速な支援を行う ・面談週間等を通じて、生徒の悩みの早期発見に努める。 教育相談係や学年団との定期的な情報交換(週1回)	B	・クラスミーを用いて、いじめアンケートを実施した。回収に時間を要することもあったが、生徒・保護者からの訴えについては、迅速に確認し、いじめ対策委員会を開催し、組織的に対応することができた。 ・週1回の生徒情報交換により、生徒が抱える課題の早期対応ができていく。今後も継続していく。	B	・本校でいじめを許さない教育が行われているのかという質問に対し、そう思うと回答した生徒が73%、ややそう思う22%。残りの5%の生徒をなくすために、さらにアンテナを高く張って、全職員でいじめ撲滅に努める必要がある。 ・いじめの覚知・認知の件数が5件。学年団、いじめ対策委員会、教育相談等で協議を行い、迅速に対応できた。いじめ解消100%は達成できた。	A	・生徒が先生方を信頼して話しやすい体制ができていて、生徒がよく相談にきている。 ・先生方が丁寧に対応されている。 ・いじめ・体罰のアンケートの実施方法は今後検討していくと更によいものになる。	生徒指導部、教育相談	
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀に誇りや愛着を感じる。どちらかというと感じる」生徒が85%以上	・郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した取り組み ・「さがを誇りに思う教育」講演会の開催 ・「伊万里学講演会」の開催	B	・朝の活動の時間を活用し、「佐賀語り」を読み、地元佐賀について学ぶことができた。 ・本校OBを講師に招き、郷土に愛着を持ち、貢献しようとする意欲を育む講演を実施した。	B	・伊万里学講演会ではカプトガニに加え、やきものについての講演会も実施した。地元伊万里に対する関心は更に高まり、年間の活動を通して郷土愛を育むことができた。	B	・#キセキ部の時間の確保が課題(理想は週2回くらい活動したい)	総務部	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○「毎日朝食を摂る」生徒80%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・集会や保健だよりによる啓発 ・保護者への個別の連絡	B	・各種集会や保健だよりで「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」に関する啓発を行ってきた。1学期の調査では、「毎日朝食を摂る」生徒は78%であった。80%以上を目標にさらに啓発していきたい。	B	・2学期の調査では、「毎日朝食を摂る」生徒は83%と目標を上回り、将来自立した生活を送るための基本的習慣がおおむねできている。今後もさらに啓発し、朝食摂取率を向上させていきたい。	B	・生徒が学校で弁当を注文できるようになればよい。	保健厚生部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会会則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外勤務を昨年度比で10%以上削減する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・生徒の登校時刻の設定	C	・時間外在校時間は、9月時点での昨年度と比較し1ヶ月当たり、約13%(5時間程度)減少しているものの、まだまだ少ないとは言えない状況である。 ・年休の取得率も職員によりばらつきがあり、十分とは言えない。 ・効率的な業務の割り振りや併せて年休の取得を呼びかけていく。	B	・時間外在校時間は月平均一人当たり、4月～1月で約35時間で、昨年度同時期の約40時間から5時間(12.5%)の減少であった。 ・年休取得については年間一人当たり12日で、昨年度平均8.6日から増加した。 ・次年度に向けて業務の割り振りや効率化を更に検討していく必要がある。	B	・定時退勤日を積極的に実施していくとよい。	教頭	

重点取組内容	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価	意見や提言
				評価項目	取組内容	達成度	達成度			評価	意見や提言
○変化する社会に対応できる確かな学力の育成	○変化する社会に対応できる確かな学力の育成	○地域の物的資源や人的資源を活用した講演会やボランティア活動等を含ませて年3回以上実施	・カプトガニ産卵地清掃ボランティア活動 ・職業セミナーの実施 ・#キセキ部プロジェクトの実施 ・伊高寺子屋の実施	A	・地域に関心を寄せ、本校OBや地元の人たちと連絡を密に取りながら、地域の活性化を目指して諸行事に取り組むことができた。	A	・地域の現状や課題を理解しようと努め、生徒自らがその解決に向けた計画を立て諸活動に進んで取り組むことができた。	A	・学校を地域で活用するような働きかけがあれば更に活性化される。	総務部	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導で目的意識を持たせることで、学習の意欲を高めることが必要である。特に、低学年からの家庭学習時間の確保には目的意識を高めることが大切である。 ・教職員の働き方改革については、現状の把握のもとに、業務のスリム化や業務の分担の最適化を進める必要がある。 ・次年度から、普通科改革についての検討を始め、地域の期待に応えられる学校づくりを進めていく。
--------------------	---